



地球に一人だけのボク・キミ・みんな

今年の夏が長かったせいでしょうか。実感^{じっかん}が伴^{ともな}いませんが、もう1か月で2024年が終わろうとしています。11月には屋島集団宿泊学習(1年)、職場体験学習(2年)、進路懇談(3年)等があり、自分自身や将来と向き合う成長の場になりました。12月は人権集会等を通して、2学期のまとめと1年の締めくくりをするときです。

童謡^{どうよう}「ぞうさん」の作詞者は、まど・みちお(1909-2014)さんです。「ぞうさん、ぞうさん、お鼻が長いね」と言われた象が、「そうよ、母さんも長いのよ」と答えるおなじみの歌詞について、まどさんは次のように語っています。

④屋島宿泊学習(キャンドルサービス)、⑤職場体験学習(消防署)▶



ぞうの子は、鼻が長いねと悪口を言われた時に、しよげたり腹を立てたりする代わりに、一番好きな母さんも長いのよ、と誇りを持って答えた。

それは、ぞうがぞうとして生かされていることが、すばらしいと思っているからです。

(『まどさんのうた』より)

象は象として生きる。人は人として生きる。生きとし生けるもの全てが、唯一無二^{すべ ゆいいつむに}(*)の存在として、それぞれの時間を生きています。

(*)【唯一無二(ゆいいつむに)】……この世でただ一つしかないこと。

また、まどさんは「(目の色が違ってても、髪の色が違ってても、仲良くしようではなく)目の色が違うから、肌の色が違うから、すばらしい。違うから、仲良くしよう」と話しています。「違い」は、裏返せばその人ならではの魅力^{みりょく}にもなります。人間は弱いもので、人と比べて自分はだめだと思ひ込んだり、反対に人をばかにしたりすることがありますが、一人一人違って当たり前。他人と比べるのではなく、「自分らしさ」や「その人らしさ」を尊重し合える関係を互いの努力で築いてほしいと願っています。

最後に、詩人の川崎洋^{かわさきひろし}(1930-2004)さんの『ひとつだけ』という詩を紹介します。

三毛^{みけ}ねこ シャムねこ ペルシャねこ 黒ねこ 白ねこ 宿^{やど}なしねこ どんねこ …(略)…

ねこはいっぱいいるけれど うちのねこは一匹しかない

(中略)

地球には人がいっぱいいるけれど ぼくは一人しかない

地球には人がいっぱいいるけれど みんな一人しかない人ばかり

こんにちは 一人しかない きみ

おはよう 一人しかない みんな

(『ひとつだけ』より)

全ての愛^{いと}おしい命が、地球に一つだけの輝きで存在する。そんな学校や未来の社会を、ここから作っていききたいものです。